おもちゃ図書館活動事例集

おもちゃ図書館の原点を探る

障害のある子どもたちや子育て中の親子にとって、楽しく遊べる場所、ホッとできる居場所である「おもちゃ図書館」。全国各地に 346か所あり、地域のボランティアの力によって元気に展開されています。それぞれの図書館には、設立の背景やめざすもの、活動のスタイルに個性があり、まさに多様性に満ちた取り組みです。ボランティア活動ならではの課題に直面しながら、知恵と工夫を重ね、よりよい場づくりを模索し続けています。

この事例集では、そんなおもちゃ図書館の“ありのまま”の姿とボランティアの想いをお届けしたいと思い、編集しました。「おもちゃ図書館」に少しでも理解を深めていただければ幸いです。

01 釧路市おもちゃライブラリー
03 おもちゃライブラリー mamaconcierge wednesday
05 おもちゃ図書館 TOYTOY
07 浦和トイライブラリーおもちゃ箱
09 おもちゃ図書館すてっぷ
11 おもちゃ図書館ぐりーん☆きっず
13 吉祥寺おもちゃ図書館 mini
15 名古屋中村おもちゃ図書館
17 半田市おもちゃ図書館つみき
19 おもちゃ図書館赤ずきん

認定NPO法人おもちゃの図書館全国連絡会

「Cool Stay 釧路」の Cool なおもちゃライブラリー

北海道釧路市

釧路市おもちゃライブラリー

ノーマライセーションと共に育ったライブラリー

北海道の他の図書館と同様、婦人（現在は女性）団体連絡協議会が中心となって 40 年以上前となる 1983（S58）年 3 月に道内 9 番目の図書館として開設された本館ですが、行政や社協、地域のみなさまに愛されて現在に至っています。

1000 点以上のおもちゃと 600 冊以上の児童図書が、子どもたちへの教育の仕事を終えた旧東栄小学校の１階の広い一室にて、市の教育委員会のみなさまのご支援を受けながら、常設型のおもちゃ図書館として、所狭しと子どもたちの来館を心待ちにしています。

1981（S56）年は国際障害者年（IYDP）でした。「完全参加と平等」のテーマのもと、ノーマライゼーション理念が福祉の基本として広げられていました。そのなかで釧路市社会福祉協議会が中心となり、釧路市の代表的なお祭り「港まつり」での歩行者天国にて「釧路市ふれあい広場」が始まりました。1985（S60）年　8 月、その全市的な福祉イベントに初参加した私たちは、炎天下の中、道行く親子に野外出張おもちゃライブラリーとして楽しんでいただきました。楽しんだのは担い手である私たちも一緒。その感動は釧路市観光国際交流センターの屋内に移った現在の「釧路市ふれあい広場」に引き継がれています。

ごちゃまぜだから楽しい

すべてのお子さま、保護者などに楽しんでいただく場として開いていますので、ごちゃまぜだからこそのバリエーションのあるライブラリーとなっています。いつもは学齢前、幼稚園通園前の子どもたちが多いのですが、夏休み、冬休みにはそのおにいちゃん、おねえちゃんたちもたくさん参加。にぎやかになります。発達に不安のある子どもたちもたくさん遊びに来ますよ。

また、市社協・ボランティアセンターが主催する、「夏のボランティア・職業体験」にも積極的にかかわります。毎年たくさんの中高校生が一日ボランティアとしてやって来ます。後日、その感想文を読ませていただくと感動の涙なみだ、なのです。その中高校生のその後が大変楽しみです。

毎回の集団遊びのバリエーション

運営ボランティアには経験豊富な保育士メンバーもいて、昼食前の 15 分間での手遊び歌遊びなどの集団遊びにおいては、そのプロフェッショナリティーがいかんなく発揮され、大盛り上がり。手作りの遊び道具も本格的です。この時間、毎回市の図書館からお借りしてくる大型絵本の読み聞かせや大型紙芝居も行い、子どもたちのまんまるオメメがさらにまんまるに〜。

図書のプレゼント、ありがとう

イベントがこりゃまた楽しい

季節の行事もマメに開催。その中でも一年の最大のイベントが「クリスマス会」。外国人ボランティアスタッフが参加しているときのそのサンタ姿はもうそのもの！本館でのお楽しみに加え、近くの児童発達支援センターの 60 名を超える子どもたちにもプレゼントを携え訪問しますが、その盛り上がりは

格別です。ボランティアの出し物も奮っています。「おおきなかぶ」をもじって、劇「よ～いしょ　よいしょ　どっこいしょ」。観ている子どもたちも加わって、紐を引っ張って出てきたのは「かぶ」ならぬサンタさん！これがウケないわけはありません。

運営の課題をどう乗り越えたか

本館のこれまでの運営を振り返ると、「担い手」と「場の確保」にその課題が集積されて来た感があります。

開設当初は釧根地域婦人会館の一室にて障がい児へのおもちゃの貸し出しに特化し、少人数での対応で済んでおりました。その後、開設 16 年を経て小学校の余裕教室に移転でき、一気に広いスペースをいただいたときは関係者一同、歓喜の輪の中にいたのですが、そこに遊びに来られる子どもたちの対応のため、多くの担い手が必要となりました。運営主体が女性団体連絡協議会ですので、当時の加盟サークルから担当制によって担い手を出していただき運営しておりましたが、入れ代わり立ち代わりボランティアが交代するので、どうしてもコミュニケーションが行き届かなくなります。そこで、開設 26 年の 2009（H21）年に家庭生活カウンセラークラブのメンバーが中心となって、コアな運営スタッフを「サークルあそぼ」として組織して、経験の集積を図って来たのです。

そして 40 周年を迎えた、2023（R5）年には、この「サークルあそぼ」メンバーの高齢化と罹患により解散を余儀なくされ、その後を担っていただけるボランティアをあちこち探し回る中で、開設当初より社協・共募従事者として活動を見守り続けていた現在のボランティアサークル代表が呼応し、社協ボランティアセンターの協力も得て、数名のボランティアが新規にかかわっていただくこととなり、なんとか存続の危機を乗り越えて来たところです。

このタイミングで水曜日の開館を火曜日に変更しました。長年慣れ親しんでいただいた曜日を変えることに大きな不安を抱えながらの年度最初の４月４日でしたが、なんと１３人の子どもたちが参加。本当に嬉しかったですね。何より強力な口（くち）コミネットワークに助けられたようです。子どもたちの健やかな育ちを願う、親御さんたちのつながり、すごいです。

また、2024（R6）年 9 月からは新たな釧路市家庭生活カウンセラークラブのメンバーが第 4 火曜日に数名お出でいただけることとなり、心強い限りです。これからも、多くの方々にこの楽しくも充実した活動を知っていただき、ボランティア参加を呼びかけ続けていきたいと考えています。

●代表より一言

子どもたちの健やかな成長の場にかかわらさせていただいて、本当に感謝です。支援しようとして支援されている感、満載。地域共生社会の実現はここからですね！ありがたくも現在、北海道における 3 名のうちの一人として「世話人」を仰せつかっています。道内加盟館にとどまらず、同様な事業を展開しているお仲間たちともネットワークをつむぎ、子どもたちの笑顔を広げるアクション、「こどもまんなかアクション」を全国のお仲間と共に増殖して行きたいですね。（小野信一）

場所　北海道釧路市弥生 2-1-33　旧東栄小学校 1 階

日時　毎週火曜日（祝日、年末年始、全校臨時休校の日は休館）10:00 ～ 14:00

※希望により土曜日開館にも対応しています。
※火曜日以外の平日には登録サークルにご利用いただいております。

Facebook　Instagram

わたしの大好きなおもちゃライブラリー ママコンシェルジュウェンズディ☆

北海道旭川市

おもちゃライブラリー mamaconcierge wednesday

はじめまして！水曜日のわくわくを作り出すおもちゃライブラリー！

ママコンシェルジュ ウェンズディは北海道旭川市に 2020 年 1 月に開館しました。私自身、3 人の子どもを育てている中で、以前に住んでいた釧路市のおもちゃライブラリーにとてもお世話になり、子どもも私自身も大好きな場所でした。沢山のおもちゃに囲まれて、子ども達が成長や発達に合わせたおもちゃで遊べて、貸し出しもしてくれて、更には、子ども達の抱っこや、子育ての相談なども出来る、楽しい場所。

旭川に引っ越した際に、来館する子どもが減ってしまい、おもちゃ図書館を閉館したと聞いてとてもショックでした。受けた恩、楽しかった思い出、そして釧路のおもちゃライブラリーみたいな場所を、旭川に作りたい！子育て支援がしたい！そんな熱い想いを持って、ママコンシェルジュ　ウェンズディを作りました。

旭川のおもちゃライブラリーママコンシェルジュウェンズディの目的は、次に赤ちゃんを産み育てるパパ、ママが子育てしやすくなるように、楽しく子育てが出来る様に、孤育てではなく、子育てをみんなでシェアしお手伝いできるように、という、パパ、ママの支援に目的や重きをおいて活動しています。

このおもちゃが欲しかった！がここには、ある！

保護者の収入の格差に関わらず、人気のおもちゃで遊んで欲しい！との想いから、ゲーム（任天堂ＤＳ、Wii　u、ファミコン）の貸し出しがあります！本体やソフト寄付で沢山！マリオや逃走中、太鼓の達人など！　授乳でお疲れがちなママにも人気です☆　毎週 80-130 名くらいの方が利用されています。

ちょっと懐かしいファミコンなど、家族のコミュニケーションツール☆

困ったけど、誰も助けてくれない、そんな時に利用して欲しい！

子育て支援の為、毎週 100 食のお弁当、フードパントリー（食材提供)、オムツやお米、ナプキンのお渡しをしています。沢山のご寄付を循環！ 24 時間相談内容に関わらず、電話相談や、夜間一時避難シェルターを運営しています。子育困窮世帯からのＳＯＳを受け取っています。

沢山のボランティアさんの WA！！

小学生からシニアまで、幅広い年代のボランティアが活躍中！なんと、メキシコ出身さんもボランティアに加わってくれました☆　オラ（こんにちは！）グラシアス（ありがとう！）など、言葉の壁をこえて交流することは楽しく、これからも外国ルーツのボランティアさんが、積極的に関わってくれると嬉しいです！

つまづいたり、悩んだこと、課題

運営で困った事は、運営の資金をどの様に得たらよいかが、設立した 1 年目はわからないことだらけのまま、運営をしていました。特に補助金や助成金

を申請し、採択後、コロナ等色々な事情で購入するものを変更したり、使途を変える際に、採択元に相談をせず購入してしまったり、進めてしまった事は、今となっては、本当に一言相談や確認をすればよかったと後悔しかありません。

現在は運営 6 年目になっていますが、補助金や助成金の申請、報告書作り、運営費への向き合い方（このような取り組みをして社会や子育て貢献していきたい！子育て環境を良くしていきたい、そして子どもの笑顔が溢れる国にしたい）、そのための、お金を使い、実証実験して地域に波及させていく、そんな風に考えられるようになりました。

しかし、まだまだ運営上の課題が山積みで、

〇安定した財源確保（補助金は年度単位が多い為）

〇ボランティアスタッフの研修や養成、育成（スペシャリストを育てたい）

〇自分自身数字に弱いので、計算ミスや、経理関係の書類を見ると、急に眠気が出てくる・・・

課題は山積みですが、今のところ、何とか！山も登ったり、トンネルを掘ったりしながら、楽しくボランティア活動、おもちゃライブラリーの運営を続けております！

子ども同士がそれぞれ学び合ったり交流している様子が楽しそう！

毎週 100 食配食
現在まで 18,584 食配食しました

●代表より一言

おもちゃライブラリーを運営できて幸せです。

おもちゃの図書館全国連絡会の皆さま方に、本当にたくさん助けていただいて、今があります。おもちゃショーでたくさんの企業様へのお声がけなどおもちゃの寄付を集める努力、本当にありがとうございます！福島県双葉郡富岡町にも、「よのもりおもちゃライブラリー」を開館いたしました。北海道と福島、２拠点の運営頑張ります！（小池さや香）

場所 北海道旭川市末広 6 条 1 丁目 2 番 1 号

日時 毎週水曜日 10:00 ～ 12:00、13:00 ～ 14:00

ウェブサイト　シェルター　Instagram　Facebook

会員一人ひとりが主人公！
おもちゃ図書館 TOYTOY

栃木県壬生町

おもちゃ図書館 TOYTOY

壬生町初のおもちゃ図書館登場！

令和 4 年 10 月、親のための居場所として、有志により設立しました。障がいの有無にかかわらず全ての子どもがおもちゃ遊びを通して、楽しみながら成長する場を目指しています。特に障がい児支援の学びや環境整備を行いました。会場は社会福祉法人施設の地域交流センター。法人のご理解とご協力で安心安全に無料で開催することができますが、毎回おもちゃを運び入れての開設準備となります。

開催日の参加者は、親子あわせて 50 名前後。毎年保育園や子ども園に配布するリーフレットやインスタグラムや公式ライン、さらに栃木県連で作成したリーフレットをご覧になっての参加です。

参加した時にはスタンプカードに印を押しますが、カードがすべて埋まりプレゼントをもらう子が増えています。会場では赤ちゃんを安心して寝かせる環境がありますので、出産後も引き続き参加できますし、最近ではパパとお子さんの参加も多く、とてもにぎわっています。

パパ・ママは SNS ！

これまでの広報はチラシ・ポスターがメインでしたが、現代の保護者は SNS がメインの情報収集手段のようです。導入に苦労がありましたが、学生スタッフのスマホ操作指導も功を奏し、何とか定期的な発信が出来るようになりました。更に、デザイン作成（SNS 投稿・紙のチラシ編集 ）に長けているボランティアが協力を申し出て下さり、SNS・チラシいずれも、デザインが明るく見やすくなっています。

学生スタッフによるスマホ指導

まるでファミリー！信頼関係が継続を生む

元教員・保育士・民生委員・議員などが正会員。正会員の家族である学生がボランティア会員。年齢や性別、経験値が様々なメンバーで構成されています。誰ひとり欠けてはならない存在であり、設立期から退会した会員はおりません。

参加者を歓迎するウェルカムボード

喧々諤々、みんな納得で前へ進む

おもちゃ図書館自体どのようなものか？設立当初手探り状態でしたが、設立準備に時間をかけ打ち合わせました。また、設立後も、毎回ふりかえりの時間をたっぷり取り、イベントの企画、来場者への対応、感染症対策など、学生も交えて、意見を出し合っています。

助成・支援制度の活用に躊躇なく

公共・民間問わず運営補助を受けておりません。

歳入のほとんどが会員の年会費であり、新たな事業や季節の行事、人気のおもちゃ購入費は自主的に確保しなければなりません。おもちゃ図書館財団助成事業はもとより、地元行政や民間企業の助成事業の情報を積極的に入手し、申請をおこなっています。これによって、活動の活性化や会計の適正な処理にも寄与しています。

　これまで、こんな取り組みの経過がありました。

【問題発生】来場者年齢が幅広くなり、また貸し出しのしくみが周知され、人気のおもちゃが不足するようになる。

【分析と課題】設立から年数経過し、おもちゃと保管箱の修繕が増えている。また、電池の価格・活動保険料の値上げなど、予算全体、増額が続いている。人気のおもちゃは高額であり、値上がりもしており、抜本的に歳入、とりわけおもちゃ購入費用を確保する必要性が出てきた。

【対策】財団助成事業を始め公共・民間企業の助成事業を活用し、おもちゃ購入費を得ることを目論む。

【経過】複数の助成･補助事業に申請手続きをするも、大半の場合、おもちゃ購入は助成・補助の対象外であると回答を受ける。

【新たな対策】フリーマーケットやイベントの物販・体験ブースなどに出店し、利益を得る。また、各種助成・補助事業の内、プレゼンテーションがあるものを選択し直接訴える機会を持つ。おもちゃの販売価格について、店頭販売、インターネット販売などで、日頃より幅広く情報収集に努める。

【成果は】壬生町の「ボランティア活動支援事業」に申請。プレゼンテーションを経て、支給決定を受ける。約 10 点のおもちゃ購入が可能となった。

【ふりかえり】物販活動は経費や準備、労力が必要となるが、利益以外に新たな人脈を得るなどの効果もある。今後もおもちゃの購入は見込まれるため、常に取り組む必要がある。公費による運営補助を受けていない、または地域資源（ 社会奉仕団体等 ）が乏しい地域での活動者はどのように対応しているのか。今回、問題発生から解決まで約 2 年間経過している。同じような課題解決のために協力しあえる体制が整うことを願っている。

会場の風景

●代表より一言

「立ち上げてよかった、喜ばれてうれしかった。」 行政や福祉団体との関りは緩やかで、自由度の高い活動を展開できている。設立から 2 年経過し、信頼を築き上げてきている。障がいに関する相談を受けるなど地域に欠かせない存在となる。会場では短時間の滞在で、おもちゃの貸し出しをメインに利用するなど、成長した子どもも長く関われている。

（小椋理香子）

場所 栃木県壬生町　せせらぎ会ゆるり

日時 第 3 日曜日 9:30 ～ 12:00

対象 近隣にお住いの子どもとその家族

Instagram　LINE

４つの活動それぞれ「おもちゃ図書館」らしさが詰まってます

埼玉県さいたま市

浦和トイライブラリーおもちゃ箱

ひと・もの・想いをつなぐ「おもちゃ箱」

今から約 40 年前、自閉症のお子さんの母親が新聞で三鷹おもちゃ図書館を知り、遊びに行っていたところ、代表の小林るつ子さんに、自分でおもちゃ図書館を作る事を勧められ、地元のボランティアコーディネーターに相談。そして、親の立場の人とボランティアが始めた。

必要に応じて増やした４つの活動

①1983 年　障害児者のためのおもちゃ箱開始

最近は、利用が少ないけど、常連さんの憩いの場！プラレールは必須？！年齢制限なし。

②1995 年　青年（成年）の活動開始

若者同士、同世代の人と過ごさせたいと言う親の気持ちからスタート。ボラも仲間～今は、参加者もボラも徐々に高齢化。内容も「カラオケ、外食、買い物」などから、室内での「制作、ゲーム、自由遊び」に移行。プログラムによって変わるが、平均 12 ～ 3 名の申し込みがある。

③1997 年　お母さんの談話室開始

開始時は、主に障害児者の親がおしゃべりしながら手を動かし、バザー品など作成。現在は、養成講座から加わったボラや手仕事が好きな若い子連れママさんも参加。バザー品やクリスマスプレゼントを作成している。

④2010 年　にこにこ Kids 開始

障害の有無に関係しない未就学児対象のおもちゃ図書館開始。おもちゃ箱は設立者の強い思いから対象を障害児者と限っていたが、利用がほとんどない開店休業状態が続き、「場所」も「おもちゃ」も「ボラ」もいることと、『障害』と区切られると二の足を踏む人、育てにくさを感じている人と繋がりたい！との思いから、別日を設けることで設立者を説得！現在は大盛況！最近の最高記録は、28 組― 76 名 !!

毛いと玉中型へび補修中

にこちゃん開館日

広報～会報はぐくみの発行、Facebook、インスタグラム、公式ライン

設立当初からお知らせ（手書き）を出していたが、定期刊行物協会に参加し低料金で毎月発送。

現在は、行事の案内や報告、各活動の報告と予定、おもちゃ紹介、開館予定カレンダーなど掲載。最近は利用していなくても繋がっていられる、１か月に１回思い出してもらえるツール。約 300 枚印刷し、その内約 260 人に発送。残りは、遊びに来た人などに手渡し。コロナ禍に休館した時は会報もお休みしたが、その代わり、Facebook、インスタグラムを開設。若干利用増にもつながっている。2024 年 5 月より公式ラインも開始。公式ラインは、告知以外に、貸し出しおもちゃの写真を送ってもらう事で、おもちゃの貸出・返却にも有効活用している。

他団体との連携

(1) 埼玉県おもちゃ図書館連絡会・・・身近な仲間！助成金の情報交換。共同で交流会や研修会、お互いのおもちゃ図書館の見学会など実施。小さな悩みや

近況などしゃべって、共有！「あれならウチでもできそう？！」～頑張る、継続する活力に！
(2) 浦和市ボランティア協会・・・おもちゃ箱設立の仲人！合併によりさいたま市になり、浦和区ボランティアネットワーク（ＵＶＮ）に。おもちゃ図書館以外のボランティア団体と連携してボランティアフェスティバルを開催。（最初の頃からずっと役員を引き受けている！）
(3) 社会福祉協議会・・・社協の活動助成金を頂くために、書類の作成、申請の際、なるべく持って行き、担当者と顔を合わせ、話すようにしている。ボランティア養成講座の共催。夏のボランティア体験の受け入れ。単発ボランティアの募集依頼。社協が活動先を探している人を受け入れる。何かしら協力要請があればなるべく協力している。

開館場所（部屋）の占有が出来ない？！～あきらめない！出来ることを探す！～

最初は、浦和コミュニティセンターの１室を借り、倉庫からおもちゃや絨毯を出して開館。その実績が認められ、現在の開館場所である「浦和ふれあい館」が建つ時（1992 年）に、設計段階から声を聞き入れてくれた「ふれあいルーム」を常設として使用（予約も不要）。しかし、2001 年浦和、大宮、与野市が合併、さいたま市になり、2 年後岩槻市も合併したら、急に貸し部屋対象となり、占有は認められないと通達。他の利用者と同じように予約が必要となるが、そこで、設立当初のメンバーが立ち上がり、経緯を文書で提出。それが認められ、現在は、使用する日を 1 年に一度、まとめて申請し、優先予約が出来ている。

毎年行っているクリスマス会

●代表より一言

この 41 年活動が続いているのは、初代代表＆設立当初のメンバーの「おもちゃ箱を、障害のある子を中心に子育て中の親子や周りの人々がホッとできる居場所に！」との熱い想い、願い。そしてそれを実現させようとする、その時々の代表や関わっていたメンバーと利用者さんのやさしさ、あたたかさ。そんな奇跡のような出会いがあったからこそ、これまで続いてきたのだと思います。そして、5 代目代表として継承していきます！（柚口千佳）

場所 埼玉県さいたま市浦和区常盤 9-30-22　浦和ふれあい館 3 階ふれあいルーム

日時

障害児者のための「おもちゃ図書館にこちゃん」第 3 月曜・第 4 土曜 10:00 ～ 15:00
（対象：障害児者とその家族等）
お母さんの談話室「毛いと玉」第 1 水曜 10:00 ～ 15:00（対象：手作りが好きな方）
余暇支援「いるか」第 2 又は第 3 日曜 10:30 ～ 14:00（対象：主に知的障害の成年）
子育て支援「にこにこ Kids おもちゃ図書館」第 2 月曜 10:00 ～ 14:00
(対象：障害の有無に関係なく未就学児とその家族等)

Facebook　Instagram

遊びは生きる力！
親も子も安心して遊べる場所に

埼玉県川口市

おもちゃ図書館すてっぷ

地域の児童センターと連携、いろいろなおもちゃで自由に遊べるおもちゃ図書館

おもちゃ図書館すてっぷは、2009 年、川口市内の戸塚児童センターあすぱる内で開館しました。まもなく、芝児童センターでも開始し、2 か所で毎月 1 回の開催を継続しています。平日開催ということもあり、利用者は主に 0 ～未就園児ですが、各児童センターの職員さんと連携しながら、「相談機関に行くほどではないけれど少し心配や不安がある」という保護者に対しては、遊びながらお話を聞く機会を持っています。基本的に「自由に遊ぶ」形をとっていて、特にプログラムはありません。コロナ以降は定員を設けて予約も受け付けています。おもちゃは木のおもちゃからアンパンマンなどのキャラクターおもちゃまで幅広く用意しています。利用者はリピーターさんや、兄弟姉妹で続けて通ってくれる人もいて、おもちゃ貸出も「次は何にしようか」ととても楽しみにしてくださっています。

親も子も安心して遊べる場所でありたい

「子どもが自由に安心して遊べる場所」であることを大切にしていて、保護者へのお願いとしては「貸してでしょ」「一緒に」「仲良く」「順番に」などの声掛けは控えてもらっています。お子さんの発達段階を理解し、保護者がゆったりした気持ちで見守ることで、子どもも安心して遊ぶことができます。他の子育て広場などで、いつも子どもを見張るような気持ちで安心できない保護者が多いので、人気のおもちゃは複数そろえる、取り合いになりそうな時は、ボランティアがすっと仲に入るなど、親も子もストレスなく楽しく遊べる工夫をしています。

一日の活動の終わりはパラバルーンで区切り

遊びを通して子どもの発達や発育、子育ての不安に寄り添います

「相談機関に行くほどではないけれど、ちょっと心配」という子育ての不安や、発達面での心配などに、遊びながらお話を聞いて対応しています。特に 0 ～ 1 歳児では、落ち着いて遊ぶことができない、動き回ってしまう、言葉の遅れ、ハイハイや歩くこと、うまく遊べない、兄弟姉妹のかかわりなど、必要な場合にはアドバイスをしています。またそうした相談内容については、児童センター担当者と共有しています。また「発達とおもちゃ遊び」という内容で講座を開き、遊びが子どもの成長と発達にとって大切であること、遊び方やかかわり方について伝えています。

児童センターとの連携

設置・運営はすてっぷのボランティアが担っていますが、活動場所である児童センターとの連携、協力があって継続することができています。予約受付は児童センターに担っていただき、準備や片付けなどの手伝いも入ってもらっています。長期休暇には共催でスペシャルディを開催、また市内の他の支援センターなどでも出張広場を開催しています。

「障害のある子の利用がない」をどう考えるか（課題 1）

当初は「障がいのある子の日」を設定しましたが、放ディや児童発達支援などが増え始めた時期とも重なり、また児童センターへの障害児のハードルはやはり高かったのか、期待したような利用にはつながりませんでした。児童センターと相談して、「たとえ障害ではなくても、言葉の遅れや気になるお子さんへの対応」などで、おもちゃ図書館の意義を確認してきました。

長期休暇にはスペシャルディを開催

一時期は人数が多くなりすぎてボランティアが対応しきれなかった（課題 2）

利用者がとても多くなり、利用する方とコミュニケーションをとる間もないほど慌ただしい時期がありました。お子さんと遊んだり、ママたちとお話することもできず、ボランティアのモチベーションにも影響があったので、児童センターとも相談して定員を設けることにしました。コロナ以降も、定員を設けて実施しています。

おもちゃの保管･準備片付けの負担をどうするか（課題 3）

おもちゃは、衣装ケース 4 箱をそれぞれの児童センターの倉庫に保管していただいていて、その他 4 箱は毎回自家用車で運搬しています。ボランティアはそれぞれ 3 名ずつで運営していますが、当日 3 人そろうことはなかなか難しく、準備や片付けが大変な部分があり、児童センター職員が必ず 1 ～ 2 名担当として手伝ってくださっています。

毎回消毒して片付け（夏ボラ受入日の様子）

●代表より一言

おもちゃ図書館すてっぷは「子育ての応援」の気持ちで開館しています。もともと障害のある子のためにと始めたおもちゃ図書館ではありますが、子育ての大変さやしんどさは誰にでもあるものです。子どもと過ごす楽しさや遊ぶ楽しさを感じ、少しでも気持ちを楽にして子どもとかかわってほしい、振り返ってみればあっという間に過ぎてしまう「子育て期」をもっと楽しく､と願っています。またボランティアの人数は各 3 名ずつと小人数で、月 1 回しか顔を合わせない間柄ではありますが、とても大切な仲間です。（隅田ひとみ）

場所・日時

①戸塚児童センターあすぱる

第 4 水曜 9:40 ～ 10:40/10:50 ～ 11:50(対象年齢 10 ヵ月以上～)

②芝児童センター

月 1 回金曜 9:40 ～ 10:40/10:50 ～ 11:50(対象年齢 6 ヵ月以上～)

※①②ともに、下のお子さんは何か月でも OK
※貸出は一人一点、2 回目のご利用から
※発達や子育ての相談などある方優先

Instagram

障害や育てにくさがある子どもをもつご家庭の居場所

埼玉県所沢市

おもちゃ図書館ぐりーん☆きっず

ぐりーん☆きっずの概要

所沢市の子育て支援関連の会議の中で、『障害のある子どもや育てにくさがある子どもの遊び場がない』という課題を受け、保健センターの事業をフォローする目的で、平成 26 年 9 月にみどり児童館の事業として開設しました。『障害や育てにくさがある子どもをもつご家庭の居場所』として活動しています。

利用の対象は、登録をしている親子のみを受け入れ、活動頻度は、月 1 回、1 時間 30 分の活動です。令和 6 年度の登録数は 18 組で、対象の乳幼児・児童の合計は 21 人でした。利用状況は、毎月 3 組 6 人～ 13 組 3 7 人の親子の利用があり、年間の利用総数は 53 組 139 人でした。

児童館で運営しています

児童館は 0 歳～ 18 歳まで利用できる施設です。児童館で実施することにより、乳幼児期だけでなく世代を超えて利用できます。また、対象児だけでなく兄弟姉妹や保護者など家族のサポートもねらいの 1 つとしています。

遊び場に困っている親子の居場所です

日頃、児童館の乳幼児室などで他の親子に「ごめんなさい。」と謝りながら過ごしている親子、他の子の成長と比べてしまい苦しい思いをしながら過ごしている親子、不安を抱えている親子など困っている親子に、「ここでは何も気にせず遊んでいいよ。」という場を提供しています。

『育てにくい、障害があるお子さん』を対象としていることで、他の人の目を気にせず、安心して利用してもらっています。お子さんだけでなく、お父さんお母さんにとっても居場所となっていることを感じます。

児童館の中で困っている親子へ声掛けを行っていますが、地区担当の保健師さんから「おもちゃ図書館を紹介したい親子がいるのでサポートをお願いします。」と支援要請があるなど、保健センターとの連携も欠かせません。

継続したサポートを行っています

登録制としていることで継続してサポートできていることも大きな特徴です。年度の始めには 1 年のスケジュールを郵送し「いつでも待っているよ。」ということを伝えることで、小学校に進級しても時々顔を見せてくれる親子もいます。昨年のクリスマス会には小学生が 7 人も参加し、大きくなった姿を見せてくれました。保護者の方々もボランティアさんとの会話が弾み、お子さんの成長を喜び合う貴重な時間となりました。

ボランティアさんの継続（課題 1）

ぐりーん☆きっずは開設時、4 人のボランティアさんにご尽力いただいてスタートしました。当時は、事務作業、連絡・とりまとめ、おもちゃの管理、イベントの計画・準備・実施など、ボランティアさんに全てを託していたので負担が大きかったと思います。その皆さん全員が今でも継続して力を貸してくださっていますが、月日が経つにつれて、高齢のために今までの業務はこなせないと感じるボランティアさんの意見がありました。そこで、私たちはおもちゃ図書館の継続を第一に考え、煩雑な事務作業やおもちゃの管理、連絡・とりまとめなどは児童館スタッフが行うこととし、ボランティアさんの仕事を軽減させました。

現在、ボランティアさんには、当日の活動、手作り名札の準備、絵本の整理などを担っていただいています。高齢のために卒業を検討していたボランティアさんも、現在も笑顔で活動に参加してくださっています。これからも活動を継続していくことを第一に、利用親子だけでなくボランティアさんにも「楽しかった」「参加してよかった」と思ってもらえるよう運営していきたいと思います。

新規ボランティアさんの獲得（課題 2）

ぐりーん☆きっずは、障害や育てにくさがある子どもをもつ親子の居場所としているので、親子に寄り添ってくださる方、個人情報の守秘義務を守れる方にボランティアをお願いしたいと思いながら、該当する方を探すことが大変難しく、なかなか新規ボランティアさんを迎えることが出来ずにいました。しかし昨年、既に連携があり信頼できる地域の民生委員さんに相談したことで、3 名の方を紹介していただくことができました。現在ボランティアさんは総勢 7 名となり、皆さん、親子のことを温かく迎え、見守ってくださっています。

ボランティアさんたちによるハンドベル演奏のプレゼント

●代表より一言

ぐりーん☆きっずの活動は 11 年目になります。その間、近隣の子育て支援の状況の変化やコロナ禍の影響などもありましたが、継続させることを第一に考えて活動してきました。コロナ禍ではそれまでの会場では親子を迎えることが出来ず、会場を移し、活動の度に大量の玩具を車で運びながらも活動を続けた時期もありました。様々な状況の中、試行錯誤しながらもボランティアさんと共に『困っている親子の居場所となること』という思いはぶれることなく、活動を続け乗り越えてきました。

そんな中で、昨年、大変嬉しい出来事がありました。小学 4 年生になった女児が「小さい子と遊んであげたい。」と自らボランティアとして参加してくれたのです。「利用者だった保護者の方々や成長した子どもたちが、いずれボランティアとして参加してくれたら、、、」という、長年の私たちの夢が叶った年となりました。女児は、自身の病院通いなどがあるため滅多に参加することはできないのですが、成長した今もおもちゃ図書館のことを覚えてくれていることに感動し、ボランティアさんたちとも喜びを分かち合いました。他の保護者の方からも、「ここがあってよかった。」と言っていただき、『親子の居場所』として継続して認識してもらえていることを大変嬉しく思います。今後は、利用者同士が繋がりを深めるためのつなぎ役としての役目も担っていきたいと思います。

ご自身の仕事やご家庭のことで忙しい中、惜しみなく力を貸してくださるボランティアの皆さんに恵まれたことが私たちの何よりの財産です。これからも「あってよかった」と言ってもらえる場であり続けられるよう、ボランティアさんと共に温かい活動を続けていきたいと思います。（久保真里）

場所 埼玉県所沢市緑町 1-8-3 所沢市立みどり児童館
日時 月一回開催　開催日時はお問い合わせください
対象 発達に心配のあるお子さん

子育て家族につなげていきたい
私のまちの「おもちゃ図書館」

東京都武蔵野市

吉祥寺おもちゃ図書館 mini

子育て支援マップが出発点、隣接三鷹市のおもちゃ図書館を見学し「私たちのまちにも！」

武蔵野市内で「子育て支援 ＝ 親への支援」「家にこもらず外に出よう」をテーマに子育てマップを数年継続作成した母親たちが核となり、吉祥寺おもちゃ図書館を 2009 年創設しました。きっかけは三鷹市おもちゃ図書館を見学したことで、おもちゃ図書館のインクルーシブ理念に共感し、現在、武蔵野市内でおもちゃを介した遊び場を運営しています。スタート直後からは市内外の子育て中の親子に毎週の定期開館（2009 年～2022 年度）とおもちゃ貸出を来館者に無料で行ってきました。活動を続けるうち、周知と地域貢献を目的として市内公共施設や団体のイベント時に年数回、工作ワークショップ（ 防災・減災工作など ）も行なうようになりました。2011 年に吉祥寺東町から吉祥寺北町の個人宅に移転、2023 年 4 月吉祥寺北コミセンに移転し、公共施設の貸室規約のため、定期開館は月 2 回と減りましたが、他のワークショップなどは変わらず継続しています。（2023 年度定期利用はのべ人数 427 名 , 2024 年度 542 名）

閉館ギリギリ？なんとか活路を！

前述のように私たちは武蔵野市内で 2 回移転しました。1 回目は開設場所が老朽化で取り壊しのため、2011 年メンバーの知人宅の一室を借り、出発点だった 2 年間の活動場所を後にしました。新天地で 12 年間週一回の定期開催を中心として活動し、元々子供の発達相談をお仕事とされていた大家さんには子ども関連の悩みを聞いてもらいたくなる雰囲気のある方でした。多々助けられてきたと感じていますが、現在 93 歳となる大家さんが終活を決意されたため、移転を決断しました。多くのおもちゃの置き場も兼ねていたためスペースの関係で場所確保に苦労しました。

閉館または大幅縮小が何度も頭をよぎる中、懇意にしていた民生委員の紹介で現在の活動場所であるコミセンに、おもちゃの継続的な置き場も確保の上で 2023 年 4 月、移転しました。2 回とも危機的状況だったにも関わらず活動継続につながったのは、地域の人との繋がりがあってこそだと思います。

相互に尊重しあえる関係が心の拠り所

難しいルールやハードなタスクを設けずにきた点が良かったのでは、と思います。またメンバーの人柄や資質、人とのつながりはもちろん、仲間を相互に尊重しフォローしあえたことも継続を可能にした大きな要因でした。メンバー同士の人間関係は来館者にも影響を及ぼすことを前提に考え、活動日は「今日も楽しく始めて楽しく終えよう」と心に刻んで開場しています。いつも親に「頑張ってるね、この子がとっても素敵なのはママパパの接し方が素晴らしくて安心できてるからだよね」等、労いの言葉を惜しまずかけます。親も認められ褒められしばし癒されることで元気が湧いて成長すると信じた上で接すると開館中の雰囲気がいつも和やかです。利用者さん同士新たにお友達親子を連れてきてくれた時、ここで出会った利用者さん同士が距離をちぢめている場面など見られると、とても嬉しいです。

スタッフ同士、利用者さん親子との関係も常に尊重しあっていきたいです。また、子育て関連の資格取得などへのチャレンジはメンバー自身の成長につながりました。現在メンバーは、幼稚園教諭資格、

保育士資格、その他介護ヘルパーや、おもちゃに関する資格等を有し、得た知識と経験をフィードバックして、おもちゃ図書館活動へのやりがいをさらに見いだせていると感じます。

地縁と情報を大切に、自治体、社協、福祉団体などとのつながり

武蔵野市民社協にボランティア活動団体登録し、また武蔵野市の子育てネットワークに参加して、情報収拾や情報交換を他団体や行政の担当者と続けています。武蔵野市の子育て支援団体ガイドブックに掲載され、また、他団体のブログに取り上げていただくなど、子育て家庭におもちゃ図書館の存在を認知してもらう点で役立っています。その他、市内の福祉団体主催の、災害を意識した地域防災活動のイベントに経年出展しています。災害時に役立つグッズ工作の紹介や避難所でも子どもが遊ぶパワーを大事に、と考えています。新聞紙で手軽に作れる防災スリッパは毎回好評な上、紙コップ・ストロー・紙皿など手軽に入手できる素材を材料に、安全で楽しいおもちゃ作りも同時に提案して、喜ばれています。

震災直後は「避難所でも遊ぶだなんて、そんな余裕あるの？必要なの？」とご意見いただくこともありましたが今では「遊びは子どもの心の栄養」と、世間の意識も変わりました。また「世代や状況を問わず助け合おう」と、障害児の家族団体と行事を共催する事もあります。エコバッグ作り体験などを行なって、ゆるいつながりが続いています。地域のこども食堂とも今後、コラボ活動の計画を練っています。

移転は身から出たサビ？今からでも中長期的な視野で活動計画を

活動場所の移転の可能性など全く考えておらず、当時は 2 回とも薄氷を履む思いでしたが、結果的に 2 回とも乗りきれたのが地元に支えられて幸運だったことは言うまでもありません。これまで単年度の助成金取得や活動計画のみの短期的視野だったことが活動の可能性を狭めていたのかと思い至りました。2 年後、3 年後、5 年後の計画を考え、メンバーとも相談しようと思っています。計画性を持って活動していけば、今まで縁のなかった団体との関係が新たに生まれたり、そこからおもちゃ図書館を継いでくれる若い世代との出会いも期待できます。地域から信頼をさらに深めるために、中長期計画に取り組みたいと思います。

おもちゃ図書館活動場所

●代表より一言

【今後も愛されるおもちゃ図書館活動を】全国連絡会を経由していただく、良い本いっぱい文庫からの絵本児童書、企業から頂くおもちゃや助成や素材（エコバッグ等）がとても喜ばれていて、支えられています。保育園が決まっても「第2子が生まれたら必ず連れて来ます」と再訪してくれる利用者さんもいて再会が楽しみになっています。こうやって地域に根付き続けていきたいです。（藤井美里）

場所 東京都武蔵野市吉祥寺北町 1 丁目 吉祥寺北コミュニティセンター

日時 第 2 水曜・第 4 水曜 10:00 ～ 12:00

ブログ

障害児教育の教員が
自宅で始めたおもちゃ図書館

愛知県名古屋市

名古屋中村おもちゃ図書館

国際児童年（1979 年）に「豊かな遊びを広げるおもちゃ展」を愛知県で開催したことを契機に

愛知県コロニーの同僚がロンドンでの第一回国際会議に参加して、日本でもおもちゃを使った図書館活動をやろうということになりました。国際児童年を記念する行事で「豊かな遊びを広げるおもちゃ展」を 1 か月間実施し、その後国際障害者年を経て、障害児の遊びの貧困さを痛感し、名古屋の自宅で 1984 年に開館しました。全国連絡会初代代表の小林るつ子さんが息子の名前から「としちゃんライブラリー」と命名してくださいました。学校勤務のため日曜日に自宅を開放する形で始めました。新聞、ラジオ、テレビで紹介され、三重や岐阜からも利用者が来館。保健師さんも障害児の親子と参加されました。

学校が週 5 日制になり、市の教育委員会からの要請で第二土曜日に社会教育センター（現・生涯学習センター）で活動場所を移すことになり、名称も「名古屋中村おもちゃ図書館」と変更し現在に至っています。

子どもの発達、療育相談も実施しているおもちゃ図書館

ボランティアに元保育士がいたり、代表が障害児学校の教員ということもあり、子育ての中で発達上の相談、運動療育、言語発達に関する相談が多くありました。子育てを経験してきた主婦ボランティアの知恵とアドバイスは若いお母さんたちの良き情報交換の場にもなっています。

子どもの発達段階にあったおもちゃの紹介は、子育てに不安を感じているお母さんたちに安心感を与えることにもなったようです。

いろいろな方々の力を借りて運営

名古屋には主婦の方々で手作りの布の遊具作りを 50 年以上前からされている「たねの会」というグループがあります。幼児の等身大人形の「たーくん」「ねねちゃん」、2 メートル四方もある、マジックテープやボタン、ホックで魚を止める「海」、ベルクロ生地でできている「キャッチボール」、おいしそうな「ロールケーキセット」などを寄贈してくださってきました。

名古屋の青年会議所の方々とも、中部リサイクル運動市民の会の協力で久屋大通り公園で「おもちゃのリサイクル活動」を展開したこともありました。

区の社会福祉協議会で、ボランティア研修を受けられたボランティアさんたちが、布や紙の遊具を作成してくださったり、修理の得意な男性ボランティアが「おもちゃ病院」活動を担ってきてくれました。おもちゃの返却も、開館日に来れない利用者のために生涯学習センターの職員が返却を受け付けてくれています。現在は、私の息子が友人と立ち上げた NPO 法人「ひだまりの丘」のママさんスタッフが 2 名ずつ活動を担ってくれるようになり助かっています。

名古屋市や、愛知県のおもちゃ図書館連絡会や区市、県の社会福祉協議会の関係者との情報交換や協力もありがたいことです。

外国籍の利用者も、両親そろっての来館も増えています

インターネットで調べて来館したという外国にルーツのある方々や、中村区以外のおもちゃ図書館

が無いという区や市外からの来館者も増えてきました。おもちゃの貸し出し点数は制限が無いので、大きな遊具などは車で来館されて借りていかれます。口コミで利用が始まった方、市の広報紙を見て来館される方もいます。毎月 30 家族前後の来館者があるので少ないスタッフでの対応が大変なのと、イベント企画やじっくりとおもちゃ遊びの紹介ができないのが残念な状況です。

常設でないことの克服（課題 1）

自宅で開館していた時には、おもちゃの移動は関係なく片付けるだけでしたが、生涯学習センターの研修室は専用の部屋ではなく、毎回プラスチックの収納箱に入れたおもちゃをキャスターで、倉庫代わりに使わせてもらっている小部屋と研修室を何往復もしなくてはなりません。建物の外の倉庫でなくなり建物内の廊下を隔てた部屋なので以前より楽にはなっています。いつか、専用の部屋を確保できたらと願っています。

活動資金をどうするか（課題 2）

おもちゃの購入費等の助成金は、定期的に行政からは全くありません。社会福祉協議会の共同募金からの助成額も減少してきています。しかし、私たちのおもちゃ図書館活動を理解して援助してくださるおもちゃ図書館財団を始め、おもちゃ企業等からの寄贈は大変ありがたいと思っています。いろいろな財団の助成にも応募して、おもちゃ図書館の存在を広く知ってもらう努力もしていかなければならないと考えています。

ボランティアさんの確保（課題 3）

開館当初のころのボランティアさんは高齢化でやめられています。関連のあるNPO 法人のママさんスタッフが毎回 2 名ずつ来てくださるのは大変ありがたいと思います。社会福祉協議会からの紹介でボランティアさんも来てくださるようになりました。開館日以外のおもちゃの返却の受付を学習センターの職員さんが担ってくださるのもありがたいことです。

●代表より一言

おもちゃ図書館活動をライフ活動として継続してこられたのも多くの方々の理解と協力があってのことだと痛感しています。インターネットの普及で、海外の人々との交流も活発にでき、国際会議に何度も参加することができ、数多くの情報を学ぶことができてきました。おもちゃ図書館活動を通しての何よりの喜びは、「このおもちゃ、とってもおもしろかったよ」と返却時に笑顔で話してくれる子どもの顔を見ることです。長年活動してきて、子どもたちの成長発達の姿を見ることは何よりもうれしいことです。（髙村豊）

場所 愛知県名古屋市中村区鳥居通 3-1-3 名古屋市中村生涯学習センター
日時 第 2 土曜日 10:00 ～ 14:00
対象 どなたでも

ウェブサイト

ボランティアの力で進化する おもちゃ図書館つみき

愛知県半田市

半田市おもちゃ図書館つみき

おもちゃ図書館つみき

1994 年に開設し、昨年 30 周年を迎えました。

おもちゃ図書館だけだはなく、おもちゃ病院を併設し、おもちゃを大切にする心を育てる活動も進めています。図書館の設置主体は半田市社会福祉協議会ですが、運営については、30 年変わらないボランティアグループが担っており、昔遊びに来ていた子が、おかあさんになって子どもを連れて遊びに来た時も、「懐かしい顔に出迎えられる」そんな温かい空間ができています。

おもちゃ図書館以外の活動でＰＲ！

運営を担うボランティアグループが、おもちゃ図書館の活動だけではなく、さまざまな団体からの依頼、例えばイベントでのおもちゃ作りワークショップや、児童センター職員の研修など、対象を子どもだけでなく、大人や親子にも広げ、依頼者の希望に沿って活動を広げています。

講座などの依頼を受けていることでおもちゃ図書館の活動がより認知されるようになったと感じています。例えば、イオンリテール㈱様が実施しているの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」では、登録している店舗の寄付候補団体の中では、常に多くのご寄付を頂けているのはその一例であると思います。

おもちゃ図書館の運営をデジタル化！

運営を担うメンバーの高齢化、人数の減少などを補うことを目的に、ボランティアグループが主体となり図書館ソフトを導入しました。おもちゃの貸出作業、管理など作業の効率化を図り、貸出・返却の作業、未返却の管理などが迅速に行えるようになりました。

ソフト導入は男性ボランティアからの提案でしたが、パソコンを使うことに慣れていない女性陣も貸出作業等の習得に協力的で、導入から２年半。パソコンが得意な男性陣の活躍もあり継続できています。さまざまな知識を持った人材に恵まれ、また IT 化を受け入れているボランティアメンバーの協力有っての進化だと感じています。

開館をお知らせする看板

みんなの得意を活かしてます！

おもちゃ病院を実施しているためか、運営ボランティアに以前の職を活かした男性メンバーが多いです。精密機械を扱った企業出身者も多いですが、漁師経験者から、各資格保有者などさまざまで、女性メンバーについては、仕事をしながらの活動の人も多いです。

男性も女性も、これまで経験がなかったことも、互いに教えあうことで、新しいことに挑戦できています。何事にも協力して当たっているチームワーク

の良さが、おもちゃ図書館全体の雰囲気をとても良いものにしています。

手作りおもちゃ講座

課題はみんなで解決！
コロナ禍での図書館継続について

コロナ禍で感染対策として、設置側の半田市社会福祉協議会としては、既に貸出ているおもちゃの返却のみを受け付け、貸し出しはせず、休館をすることを提案しました。

しかし、運営ボランティアからは、「子どもの気持ちを考えると、おもちゃの貸し出しを続けたい」との声が上がり、制限下でのおもちゃの貸出方法を検討。部屋の入口におもちゃ数点を置き、その中から選んでもらい貸出。また、返却されたおもちゃは即時消毒する、という方法で制限解除まで開館をし続けることができました。運営ボランティアのアイデアのおかげで、部屋にも入れない、自由に遊べない制限下であっても新規登録利用者も順調に増えました。今でも引き続き利用して頂いている親子もいます。

開館日の様子

●代表より一言

現在のメンバーは 50 歳から 90 歳超えの方まで幅広い年齢の方がいます。また、男女や年齢に関係なく頭脳の働きも皆さん抜群で、ボランティア活動の良い影響を感じています。ただ、一時は転居による退会、家族の介護、自身の高齢化などで特に女性メンバーの減少が著しく、綱渡りの開館日になることもしばしばでありました。危惧したメンバーが出欠一覧のアプリを使って参加人数が解る工夫をしてくれたお陰で、人手不足の場合に自ら不足を補う対応をしてくれるようになってきました。メンバーも常に良い人材がいると声を掛けて仲間に誘ってくれたりして、新メンバーによる良い意味での新陳代謝も起こっています。人材不足がこの先も不安要素では有りますが、「定年無し」を励みに出来るところまで続けて行きたいと思っています。（松見真美）

場所・日時

「瀧上工業雁宿ホールおもちゃ図書館・病院」（瀧上工業雁宿ホール 2 階保育室他）
第 2 土曜日 10:00 ～ 14:00/ 第 4 木曜日 10:00 ～ 12:00

「クラシティおもちゃ病院」（クラシティ 3 階市民活動ルーム等）
第 1 土曜日 10:00 ～ 12:00

ブログ

みんなで子育て
みんな違ってみんないい

福岡県筑紫野市
おもちゃ図書館（ライブラリー）赤ずきん

赤ずきん誕生

1986 年 11 月 1 日筑紫野市社会福祉協議会におもちゃ図書館赤ずきんの設置申請をして開館準備に入りました。1987 年 9 月 12 日さるびあ学園にて「おもちゃ図書館赤ずきん」を開館しました。以降、月に 2 回の定期開館および不定期の臨時開館ほか、数々のイベントを開催し現在に至ります。

当時さるびあ学園は障がい児だけの施設でしたが、特定の子どもだけが利用するのではなく社会に開かれた施設でありたいという社会福祉協議会の考えにより、障がいのある子もない子も共に遊び育ち合う場所が実現しました。

そこで、グループ名を考えている時にメンバーの一人が作った赤ずきんの早変わり人形から、「おもちゃ図書館 (ライブラリー) 赤ずきん」と名付けました。

支えられ、支えあって

赤ずきんは一つのおもちゃ図書館として活動しているだけではなく、社会福祉協議会のボランティア連絡協議会にも入っています。手話・朗読・点字・視覚支援ガイド・拡大写本・おもちゃ病院・おもちゃ図書館赤ずきんの 7 グループの代表者が月に 1 回集まり代表者会を開き、活動報告、情報交換、イベントの計画などをしています。

おもちゃ病院には毎月おもちゃの修理でお世話になっています。おもちゃ病院から赤ずきんの開館日に毎回参加してくれていた時期もありました。

点字ボランティアには赤ずきんの絵本数冊に点字を付けてもらいました。遊びに来た子どもたちが点字というものに触れるいい機会になっています。

今は折り紙の先生がボランティアとして毎回来てくれています。子どもたちや保護者、赤ずきんのボランティアも折り紙を教えてもらっています。他にもビーズやレジンアクセサリーのハンドメイド作家やイラストレーターなど、いろんな人に少しずつかかわってもらって楽しい活動を続けています。

手作りの布おもちゃがいっぱい

たくさんの布おもちゃがあります。赤ずきんの設立当初からのメンバーに洋裁のプロがいます。当初は彼女の指導の下、月 2 回ボランティアが集まり布おもちゃを製作していました。しかしメンバーの子どもたちが成長するとボランティアもそれぞれの仕事に戻り、製作する人がいなくなりました。それから、作り手は一人なのですが彼女は型紙があるものは一日で仕上げる腕を持ち、活動も 40 年近くなるため布おもちゃの数量もじゅうぶんです。

今人気なのは子どもが乗れる大きさのワニのぬいぐるみ 6 匹や、よちよち歩きの子どもと同じくらいの背丈のウサギ 3 匹。来館した小さな子がウサギにこんにちはと挨拶をします。お雛様や鯉のぼりなどの季節の物も多く、子育てサークルが貸し出し利用をされています。布絵本・エプロンシアターも多数あります。

布おもちゃ本体はクリーニングに出し付属の小物は アルコールを噴霧して消毒しています。コロナ禍以降は布おもちゃの利用は減ったように思います。

仲間がいっぱい～近隣のおもちゃ図書館との連携～

長い間活動を続けられたのは、おもちゃ図書館の仲間が傍にいたからだと思います。隣の小郡市のおもちゃ図書館ゴリリンクラブと何回もイベントを計

画・実施しました。赤ずきんだけではできなかったことができました。お互いにおもちゃを交換して利用したりもしました。

福岡県内にはおもちゃ図書館が 15 か所ほどあり毎年勉強会などで集まります。宗像のおもちゃ図書館は【アン】というおもちゃ屋さんになっていて、素敵な木のおもちゃがたくさんあります。ずっと仲良くして活動のアドバイスを貰っています。

社会福祉協議会と行政に支えられ

活動当初はおもちゃの保管場所を確保するのが大変でした。さるびあ学園に保管場所はなく、社会福祉協議会の倉庫を貸してもらい、開館日の度に倉庫からメンバーの車でさるびあ学園におもちゃを運びました。開館の度に遠い倉庫からおもちゃの運搬をするのは大変だと理解してくれた当時の福祉課が、コミュニティセンターの裏にボランティア室とおもちゃ用の物置小屋を用意してくれました。

そのボランティア室は点字ボランティアと活動日が重ならないので共用しています。点字はパソコンを使いますのでパソコン・プリンターを置くためのスペースが必要です。おもちゃ図書館赤ずきんもおもちゃを置いて遊ぶスペースと保管場所が必要です。赤ずきん開館の際には来館者が点字のパソコンやプリンターを壊さないように、メンバーが配慮をしながらボランティア室内の会場設営をしています。

現在はコミュニティセンター老朽化の為、建て替えが計画されています。行政も乳幼児中心のプレイルームを検討しているようで、赤ずきんの活動について興味を持たれています。コロナ禍以降、乳幼児の親子が主な来館者です。

木のおもちゃで遊ぶ子ども

●代表より一言

「こども達とともに、おもちゃとともに、たくさんの仲間とともに」

おもちゃ図書館赤ずきんは自由に参加し自由に安全に遊べる場所の提供を心掛けてきました。活動を続ける中で、来館者の笑顔とこども達の成長が見られてとても嬉しく思っています。赤ずきんの活動は家の中だけでなく外に出て仲間と交流しながら子育てをする喜びを与えてくれました。その活動を通して色々な人と出会え、またその人から他の人と繋がり子育ての仲間が増えました。赤ずきんの来館者との話の中から「子育てネットワーク」「多胎児サークル」等がうまれました。今はボランティア室が狭い為、来館者は乳幼児の親子が多く大きなこどもはしっかり遊べません。今後、いろんなこども達が安全に遊べる広い居場所ができるように願っています。また、おもちゃの管理とメンバーのボランティアに無理のない活動を考えて赤ずきんを継続していきたいと思っています。私たちの活動は利益を生むものではありません。行政の理解と協力を得ながら続けていきたいと思っています。（大山朝子）

場所 福岡県筑紫野市二日市中央 5-5-18 二日市コミュニティセンター

日時 第２・第４土曜日　１４：００～１６：００

筑紫野市社会福祉協議会
ウェブサイト

おもちゃ図書館 あれこれ！

釧路市おもちゃライブラリー

おもちゃライブラリー
mamaconcierge wednesday

おもちゃ図書館 TOYTOY

浦和トイライブラリーおもちゃ箱

おもちゃ図書館すてっぷ

おもちゃ図書館ぐりーん☆きっず

吉祥寺おもちゃ図書館 mini

名古屋中村おもちゃ図書館
愛知県おもちゃ図書館連絡協議会

おもちゃ図書館赤ずきん

半田市おもちゃ図書館つみき

おもちゃの図書館全国連絡会 概要

障害のある子どもたちに、おもちゃによる遊びと遊びの場を提供するおもちゃ図書館が、1981 年 (昭和 56 年) の国際障害者年を契機に、ボランティアにより全国各地につくられました。おもちゃの図書館全国連絡会は、1983 年 (昭和 58 年) に 27 のおもちゃ図書館が集まり、おもちゃ図書館の活動支援を目的に結成されました。

その後、全国各地のボランティアや社会福祉協議会、女性団体などの取り組みにより、おもちゃ図書館がつくられ、2000 年 (平成 12 年度) には連絡会に加盟するおもちゃ図書館は 490 館余りになり、現在は 346 館が活動しています。

おもちゃの図書館全国連絡会は、2014 年 (平成 26 年) に特定非営利活動法人、2019 年に認定特定非営利活動法人となり、おもちゃ図書館推進のため活動を展開しています。

おもちゃ図書館活動事例集「おもちゃ図書館の原点を探る」
2025年11月発行

発行者　認定NPO法人おもちゃの図書館全国連絡会
東京都荒川区東日暮里 2-25-11
TEL 03-6807-8813　FAX 03-6807-8863　renrakukai@toylib-jpn.org

ウェブサイト　Facebook